

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 天守閣部会(第14回)

日時：平成30年12月20日(木) 10:00～12:00

場所：名古屋能楽堂 会議室

会 議 次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 報告
- 4 議事
  - ・第13回天守閣部会における主な指摘事項と対応状況について [資料-1]
  - ・木材調達の進捗状況について [資料-2]
  - ・屋根の仕様について [資料-3]
  - ・昭和実測図にない要素について [資料-4]
- 5 その他
- 6 閉会

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 天守閣部会（第14回） 名簿

日時：平成30年12月20日（木）10:00～12:00

場所：名古屋能楽堂 会議室

（敬称略）

■構成員

氏名	専門分野	所属等	出欠
小野 徹郎	建築学	名古屋工業大学名誉教授	出席
川地 正数	建築生産	川地建築設計室主宰	出席
瀬口 哲夫	近代建築史、まちづくり	名古屋市立大学名誉教授	出席
西形 達明	地盤工学	関西大学名誉教授	出席
麓 和善	建築史、文化財保存修理	名古屋工業大学大学院教授	出席
古阪 秀三	建築生産	立命館大学客員教授	出席
三浦 正幸	日本建築史、文化財学	広島大学名誉教授	出席

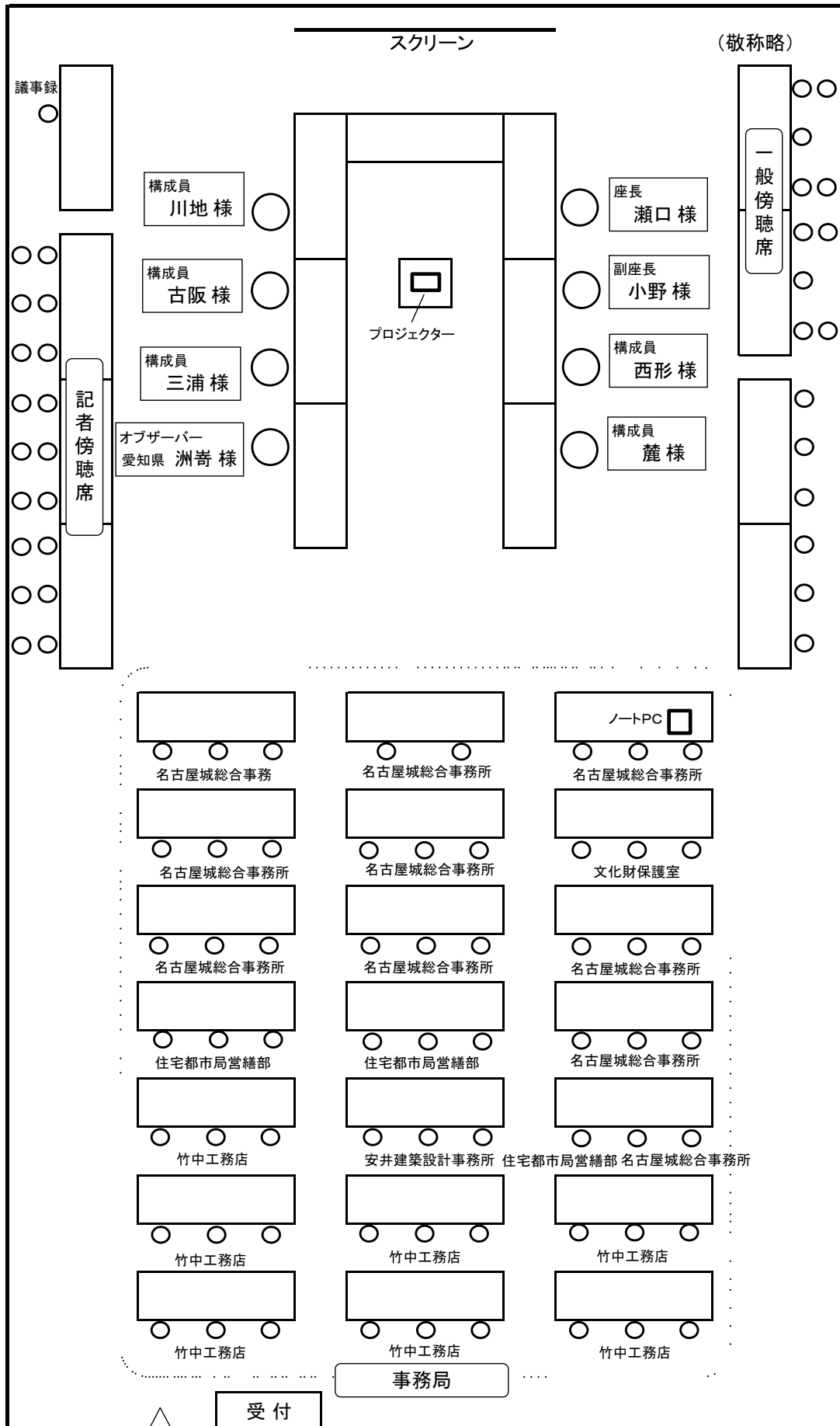
・オブザーバー

氏名	所属等	出欠
洲崎 和宏	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室室長補佐	出席

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 天守閣部会(第14回)

座席表

平成30年12月20日(木)  
10:00~  
名古屋能楽堂



■特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第13回天守閣部会）における主な指摘事項と対応（案）

資料-1

発言者	該当章	該当頁	主な指摘事項	対応
瀬口			木材の各材種の使用部位などの資料を提示してほしい。 報告事項ではなく、議題として取り上げてほしい。	今回の部会に、再度議題として取りあげました。 → 議事[資料2]
川地	資料-1 前回の指摘 事項と対応		防災計画に対して「実際の入場者数が想定を上回って避難計算が成り立 たなくなることがないように、入場者数の平準化等での対応も必要。」と 指摘したとあるが、平準化ではなく、ピーク時での対応を考えてほしい。	防災計画書では大天守における同時最大在館者数を2500人として避難時間等 の安全性を検証しております。従って大天守の限界として2500人をピークと して考えております。
川地 瀬口 古阪 小野 三浦	資料-3 10.階段に ついて	10-001 ~006	階段は安全性を考えて均等な割付とするのか、史実に忠実であることを 重視した割付とするのか。	階段については、第13回天守閣部会で提示した史実に忠実な割付で今後試験 体を制作して、その安全対策も含めて安全性や許容範囲の検証・確認等を行 う予定です。
川地	資料-3 6.建具につ いて	6-007	5階の部屋境の建具は「襖」という説明だが、絵図に記載された「戸」 という表現があるので「舞良戸」ではないか。	諸資料の表現を再確認した結果、断面図の溝形状の書き分けがあることから 「襖」と判断しました（別添資料1-1）
瀬口			・天守閣部会提示資料は復元原案なのか復元案なのか整理してほしい。 ・実施設計の工程と、天守閣部会としてどの段階で了承していくのかス ケジュールを提示してほしい。	・復元原案なのか復元案なのか、わかりやすい資料としてご検討いただ くようにします。 ・今後の天守閣部会開催予定と議案についてご説明します。 (別添資料1-2)

大天守五階の襖について

(前回) 第13回天守閣部会での説明内容

(1) 建具の存在

5階の4室の間は開放の状態ですが、昭和実測図平面図[図1]に建具が描かれていること、ガラス乾板写真に写る鴨居に溝があることから、間仕切りがあったことが判断できる

(2) 文献上の記載

- 『金城温古録』（「五重」の項）  
「御間内境、御襖無く、常に御四間透通しにて」と記載がある。「襖」が過去にあり、幕末の時点では部屋境の建具は失われ、開放になっていたと分かる。襖の場合、画題などの記載がないので、無地であったと考えられる。
- 『国宝建造物一期一号』（六 天守五層内部の解説）  
「間境の建具は今無いが鴨居の溝により元襖を建てたらしく思はれる」と記載がある。国宝建造物一期一号はガラス乾板写真撮影以前に刊行された書籍で、おそらくこの記述は消失前の建物を実見してのものと思われる、かなり確度が高いといえる。
- 『日本古建築類聚 2』（大天守の解説）  
「そして大天守の五層に出たのである。角柱長押付、天井小組格天井、襖其他建具類は今徹して別に蔵されてゐるが、」  
と記載がある。消失前に襖は取り外されていたものの、現存していた可能性がある。

(3) 図面上の記載

- 宝暦修理で描かれた「御天守地割図」では入側通りと部屋境の両者に「戸」という同じ表記をしている[図2]。地階の「カウシ戸」以外の間仕切りは、全て「戸」と記載されており、板戸と舞良戸などの区別を表現していない。
- 「名古屋城天守四層及五層東側矩計詳細図」、「名古屋城天守五層小屋組詳細図」の入側通りと部屋境の鴨居の溝の幅が異なっている[図3]。従って、部屋境は襖であった可能性が高い。

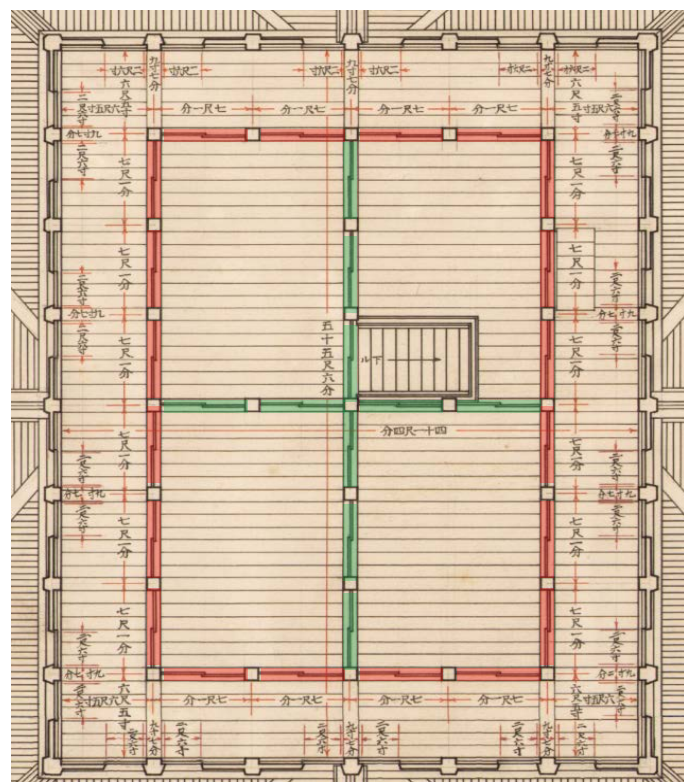
(4) 建具の種類

(復元原案)

舞良戸は、主に外部と内部の境に使われる建具であり、室と室の仕切りを舞良戸で仕切る例はあまりない。鴨居の溝形状の違いから、入側境の舞良戸とは異なる建具が、部屋境に設置されていたと考えられ、実見者による記載より、襖であったと推定される。

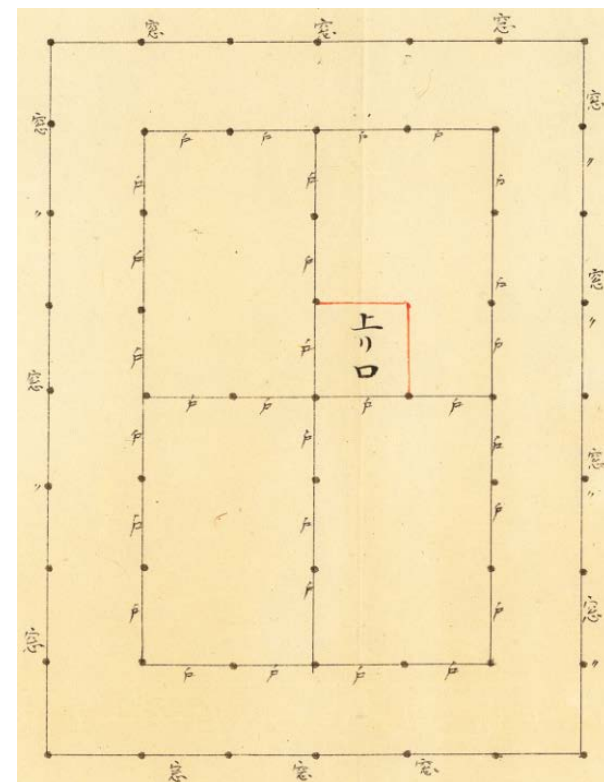
(復元案)

復元する際には、復元原案の仕様とするが、実際に復元する範囲は、管理・運営上の設定による。



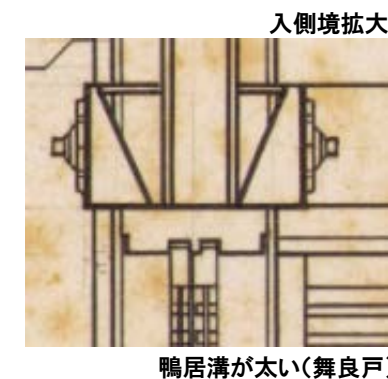
[図1]「昭和実測図 名古屋城天守五階平面図」を加工

■ : 両面舞良戸  
■ : 襖

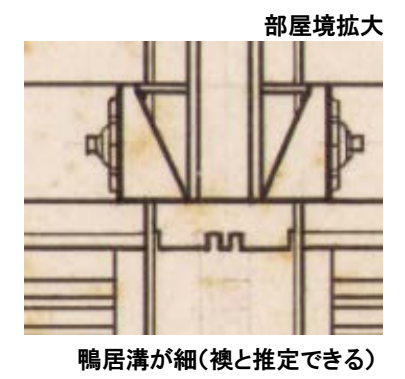


[図2]「御天守地割図」五重平面

五階の建具はすべて「戸」の表記。



鴨居溝が太い(舞良戸)



鴨居溝が細(襖と推定できる)



[図3]「名古屋城天守五層小屋組詳細図」

出典: 特記なき限りはすべて名古屋城総合事務所所蔵

## 今後の天守閣部会の議題案

大項目	小項目	復元原案	復元案	部会日付	部会	備考
性能・仕様 木材の樹種	屋根の仕様、防水、実測図にない要素	○	○	2018.12.20	第14回部会	
仕上1-1	金鯨、左官、豎樋	○	○	2019.1月	第15回部会	
活用・管理・運営・維持管理計画案	・管理、運営に関する考え方	—	○	2019.2月	第16回部会	「名古屋城木造天守閣展示・観覧等基本計画」(案)を提示予定
仕上1-2	・木部材仕上げ復元案	○				
木材	継手・仕口、補強		○	2019.3月案	第17回部会	
活用・管理・運営・維持管理の方針を反映した建築仕様	建具、間仕切壁、階段、畳、雨水		○	2019.4月案	第18回部会	「名古屋城木造天守閣展示・観覧等基本計画」
防災・避難計画に伴う設備計画	・遮煙区画の仕様、防災設備など ・セキュリティ設備など	—	○	2019.5月案	第19回部会	防災避難計画については、第12回天守閣部会(2018.7月)にて説明、ご了承済み。
石垣調査報告	・石垣詳細調査の報告	○				
仕上2・構造・設備・工事関連	銚金物、構造、各設備、工事関連	○	○	2019.6月案	第20回部会	
(予備)	(未決事項がある場合)		○	2019.7月案	第21回部会	
その他	階段モックアップ確認		○	2019.10月案	第22回部会	復元階段については、モックアップ展示施設完成後(2019.7月末予定)に、安全性の対策を施しながら実証実験を行い、結果報告とともに復元案を提示予定。

※決定期限：未決事項の回答・決定は、次回・次々回の天守閣部会を想定する。内容により、最終期限として2019年7月を設定している。



## 開催した天守閣部会の議案

大項目	小項目	復元原案	復元案	部会日付	部会	備考
通し柱の配置	管柱・通し柱のモデル化	●①	●②	①2017.8.7 ②2018.11.2	第4回部会 第13回部会	
樹種	垂直材、横架材	●①、②	●② 2018/12/20予定	①2017.7.13 ②2017.12.20	第3回部会 第7回部会	
木部材仕上げ	表面加工など	●①	2019/2/14 予定	①2017.7.13	第3回部会	
継手・仕口	各構造材	●①	2019/3/末 予定	①2018.2.14	第8回部会	
天守の耐震性能	土壁、板壁、防弾壁、貫	●①	2019/6 予定	①2017.8.7	第4回部会	
構造設計	補強方針	●	●	2017.8.29	第5回部会	
復元整備基本構想		●	●	2017.11.16	第6回部会	
壁仕様の分析	漆喰・土壁	●	●	2017.11.16	第6回部会	
バリアフリーの検討		●	●	2017.11.16	第6回部会	
大天守の屋根仕上	銅瓦、土瓦、チャン塗、破風	●①	2018/12 ～2019/6 予定	①2017.12.20	第7回部会	瓦・防水仕様は 2018/12予定 破風意匠は 2019/1予定 破風谷樋納りは 2019/3予定 チャン塗りは 2019/4予定 瓦の意匠は 2019/6予定
昇降等(エレベーター等)の検討		—	●	2018.5.9	第10回部会	
現天守閣ケーソン健全性調査		—	●	2018.5.9	第10回部会	基礎補強は 2019/6予定
雨水流れの解析		●①	2019/1/30 予定	①2018.6.11	第11回部会	樋の検証は 2019/1予定
構造計画の考え方		●	●	2018.7.19	第12回部会	基礎補強は 2019/6予定
防災・避難計画の考え方		—	●	2018.7.19	第12回部会	具体案は 2019/5予定
基準尺		●	●	2018.11.2	第13回部会	
柱間計画寸法		●	●	2018.11.2	第13回部会	
階高		●	●	2018.11.2	第13回部会	
柱の有無	二階大黒柱など	●	●	2018.11.2	第13回部会	
屋根形状の検討	大屋根形状、大棟	●	●	2018.11.2	第13回部会	
建具	建具種類、配置	●	2019/4 予定	2018.11.2	第13回部会	
外壁部中込厚板	配置	●	●	2018.11.2	第13回部会	構造要素の判断は 2019/3予定
狭間	配置	●	●	2018.11.2	第13回部会	
畳	配置、仕様	●	2019/4 予定	2018.11.2	第13回部会	
階段	寸法の検討	●	2019/秋 予定	2018.11.2	第13回部会	階段のモックアップ展示施設完成後に、安全性の対策を施しながら実証実験を行い、結果報告とともに復元案を提示予定
後代の個別改造部分	一階井桁、地階間仕切壁 他	●	●	2018.11.2	第13回部会	

## 木材調達の進捗状況

2018.12.20現在

材種	現 状	今後の予定
ヒノキ (柱・梁等)	長尺大径木の通し柱は、全国から調達しほぼ調達が完了する予定である。  〈木曽桧について〉 名古屋城の築城に木曽桧が使われた記録がある事から、できるだけ木曽桧を、特に主要な部分である柱に使っていくことで調達を進めている。最上階5階の柱(55本)については、それなりの高い品位の材を使いたいということを含めて、現在は過半を木曽・裏木曽にて調達できる見込みが立ってきた状況である。	引き続き、特に柱について木曽・裏木曽の桧を使うことを検討し、調達していく。今年度中に約6割の第一次検品を完了する予定である(金額ベース)。
マツ (梁)	岩手県を中心に現在調達中である。	引き続き岩手県を中心に調達していく。今年度中に約5割の第一次検品を完了する予定である(金額ベース)。
ケヤキ (御門柱・冠木)	国産材で長年貯木された木を調達予定である。	今年度中にすべて第一次検品を完了する予定である(金額ベース)。
ベイヒバ (梁、土台)	国産材の調達が難しいとして、ベイヒバとしていた長尺で太い梁材3本も国産松材で調達できる見込みである。そのうち最も長い梁は、先般テレビ報道もあった月山松である。 また、ベイヒバを使用することとしていた土台についても、現在国産材を採用する事の可能性を検討し調達している。	引き続き国産材を採用する可能性を検討し調達していきたいと考えている。

(株)竹中工務店 名古屋城天守閣木造復元プロジェクト



## 名古屋城天守閣整備事業

平成30年12月20日

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議  
[ 第14回 天守閣部会 ]

資料-3：屋根の仕様（防水）について  
資料-4：昭和実測図にない要素について

屋根の防水仕様について

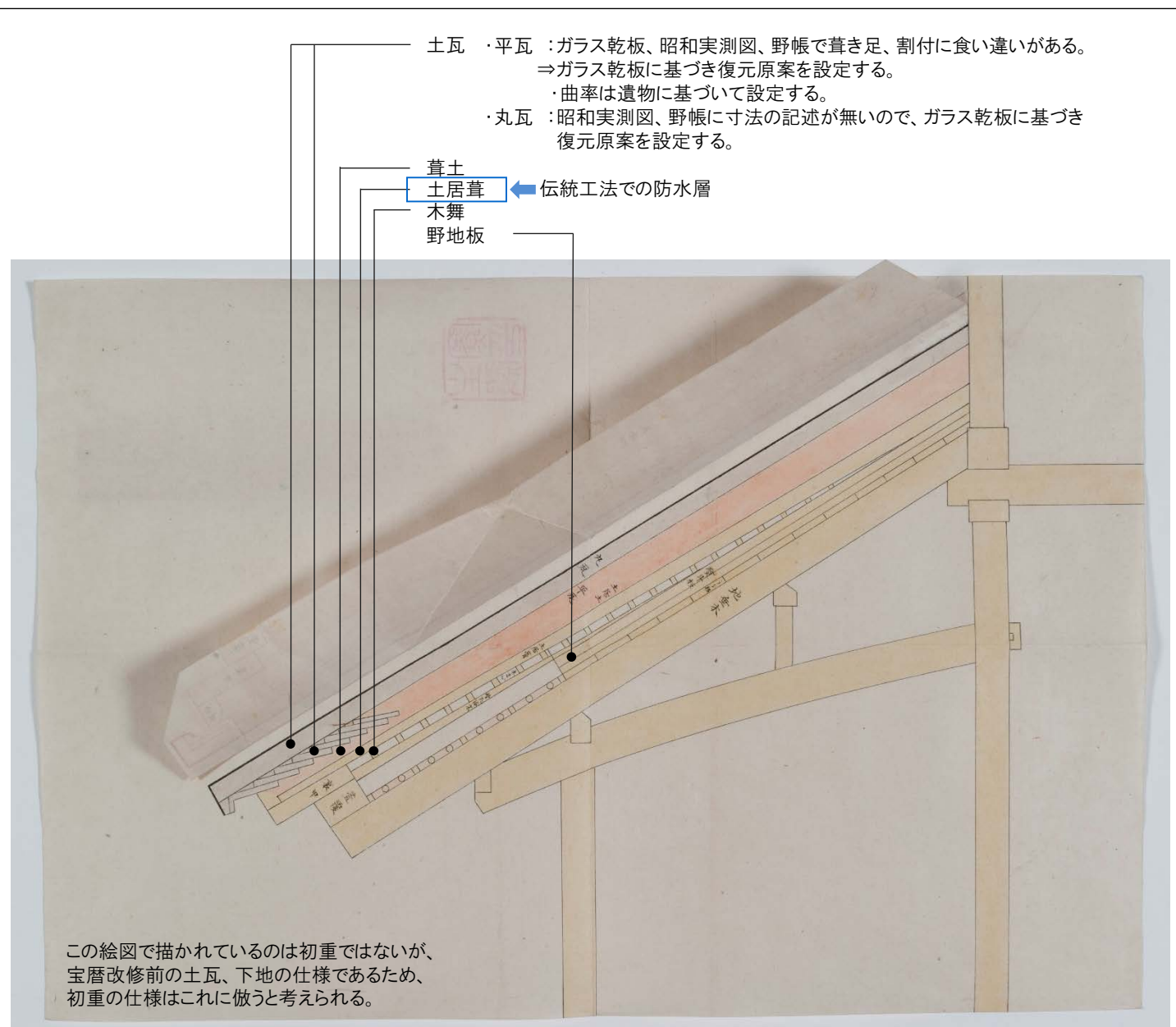
(1) 大天守初重及び小天守の屋根：粘土瓦の屋根

1) 復元原案

下記3点の史料から判明する大天守初重の仕上げ、下地の仕様を復元原案として下図に示す。

- ①文献史料 『御天守御修復取掛りより惣出来迄仕様之大法』 (写本：名古屋城総合事務所 蔵)
- ②文献史料 『国秘録 御天守御修復』 (徳川林政史研究所、名古屋市蓬左文庫 蔵)
- ③絵 図 宝暦修理関連史料 「銅葺野地之図」 (写本：名古屋城総合事務所 蔵)

⇒小天守については瓦の寸法以外の史料は見つかっていないが、下の絵図と同様と考えた。



復元原案(防水仕様)

・上記仕様出典：麓和善・加藤由香「名古屋城大天守宝暦大修理における各部修理について」『日本建築学会計画系論文集 第75巻 第635号』2010年7月)

2) 復元案

止水ライン：復元原案通り土居葺きを止水ラインとする。

- ・姫路城始め多くの文化財修理と同様に荷重軽減、耐久性を考慮し、空葺きとする。

- ・想定される不具合と対策

瓦の隙間から雨水が侵入した場合、土居葺きの表面を流れ、軒先に溜り、軒廻り材を内側から腐朽させることや、軒先を塗りこめた漆喰の剥落が想定される。

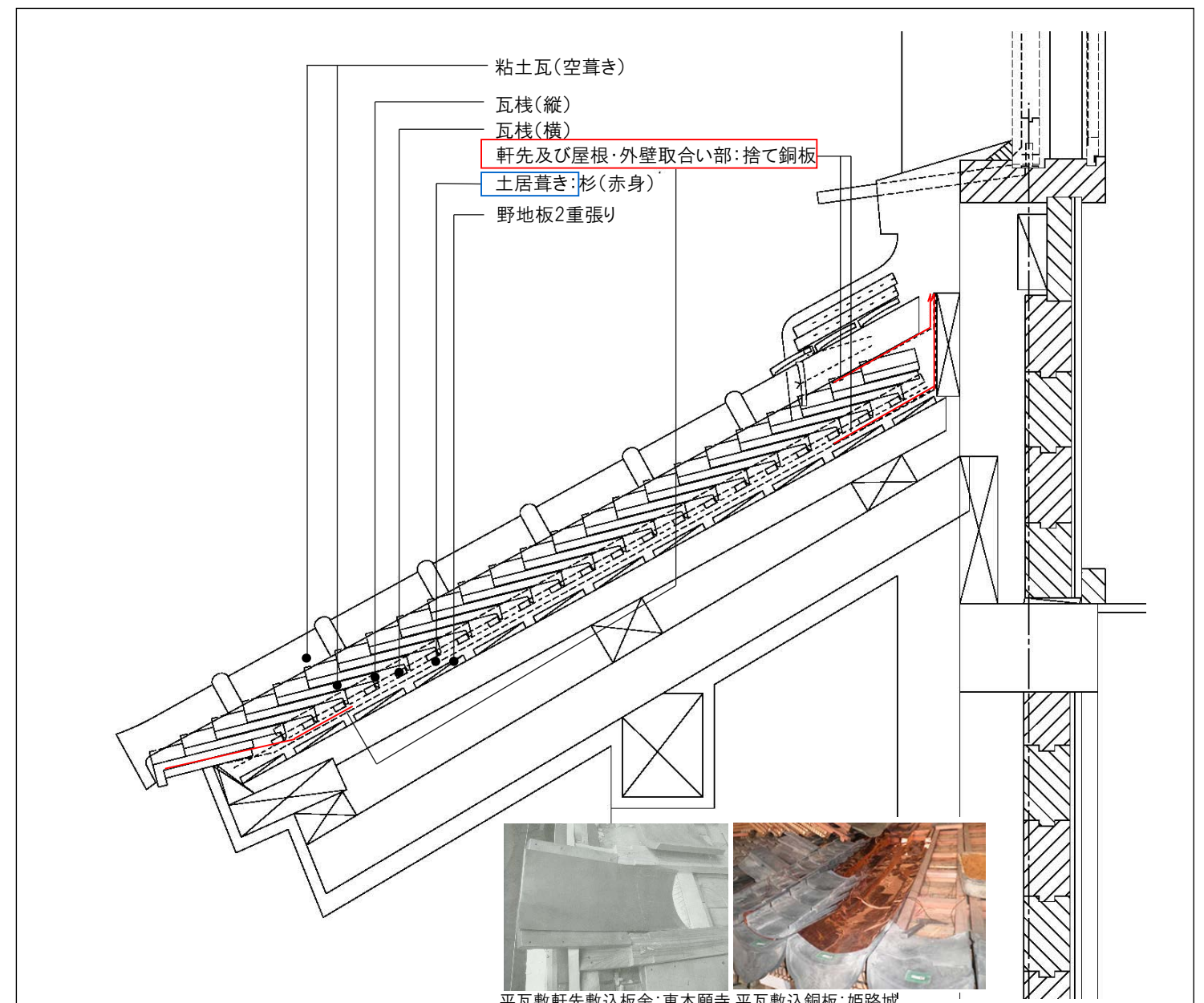
⇒軒先 : 銅板を挿入し軒平唐草と敷平に挟み込み、排水ルートを確認する。

屋根・外壁取合い部：同じく銅板を挿入し、クラック等から雨水が侵入した場合、土居葺面に導くようにする。



空葺き：姫路城  
出典：国宝姫路城大天守保存整備事業公式記録集

唐招提寺金堂  
出典：竹中大工道具館企画展「千年の葺」図録



復元案(防水仕様)



(2) 大天守二重～五重：銅瓦葺きの屋根

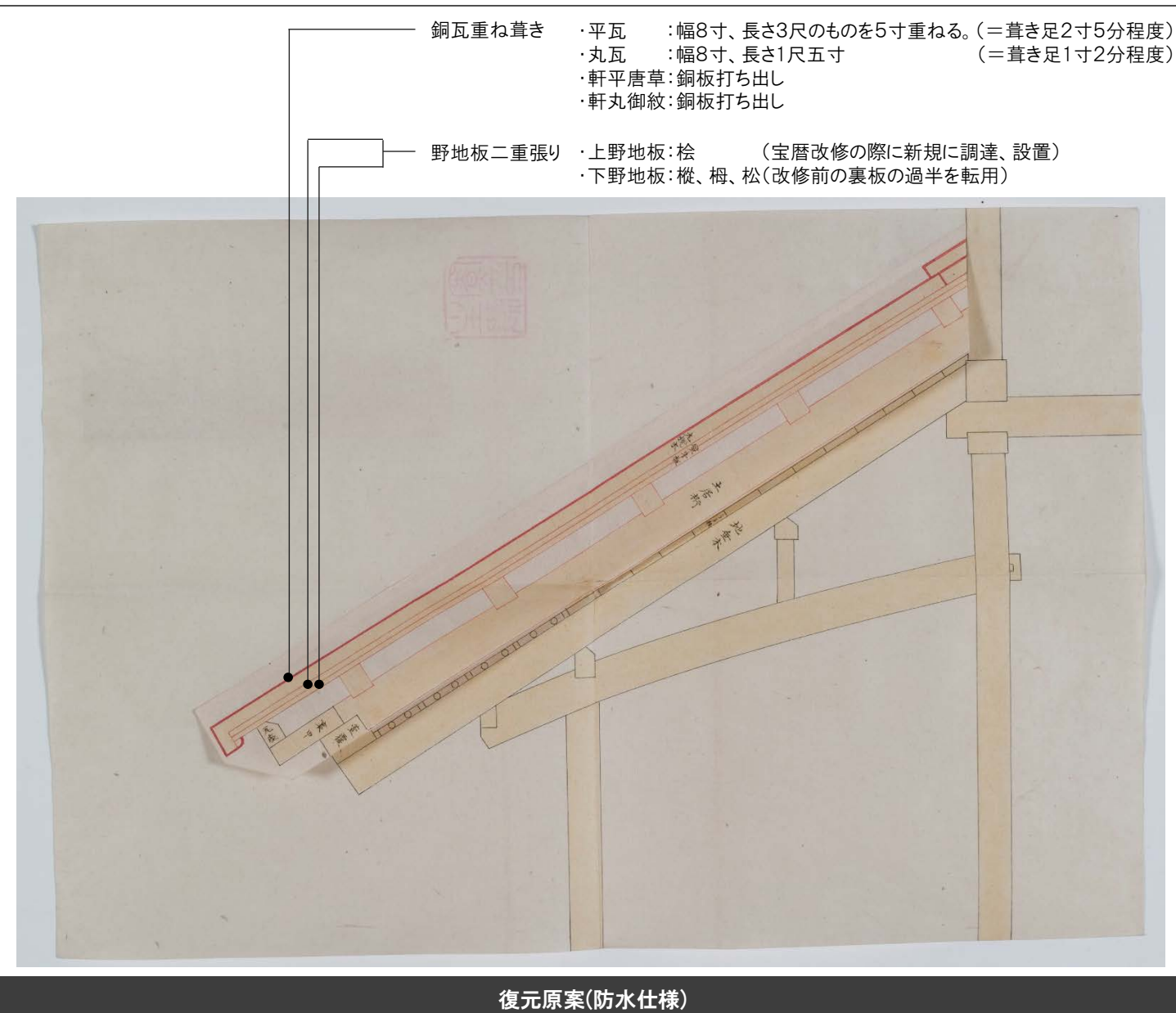
1) 復元原案

下記3点の史料から判明する大天守二重～四重の屋根の仕上げ、下地の仕様を復元原案として下図に示す。

- ①文献史料 『御天守御修復取掛りより惣出来迄仕様之大法』 (写本：名古屋城総合事務所 蔵)
- ②文献史料 『国秘録 御天守御修復』 (徳川林政史研究所、名古屋市蓬左文庫 蔵)
- ③絵 図 宝暦修理関連史料 「銅葺野地之図」 (写本：名古屋城総合事務所 蔵)

⇒これらの史料より、**伝統工法の防水層である土居葺きは設けられず野地板の2重張りに銅瓦が葺かれていたことがわかる。**

⇒野地板をずらしながら張り重ねた流し張りとして、これを防水層としていたと考えられる。



・上記仕様出典：麓和善・加藤由香「名古屋城大天守宝暦大修理における各部修理について」『日本建築学会計画系論文集 第75巻 第635号』2010年7月)  
 ・宝暦修理関連史料絵図「銅葺野地之図」(写)(名古屋城総合事務所 蔵)

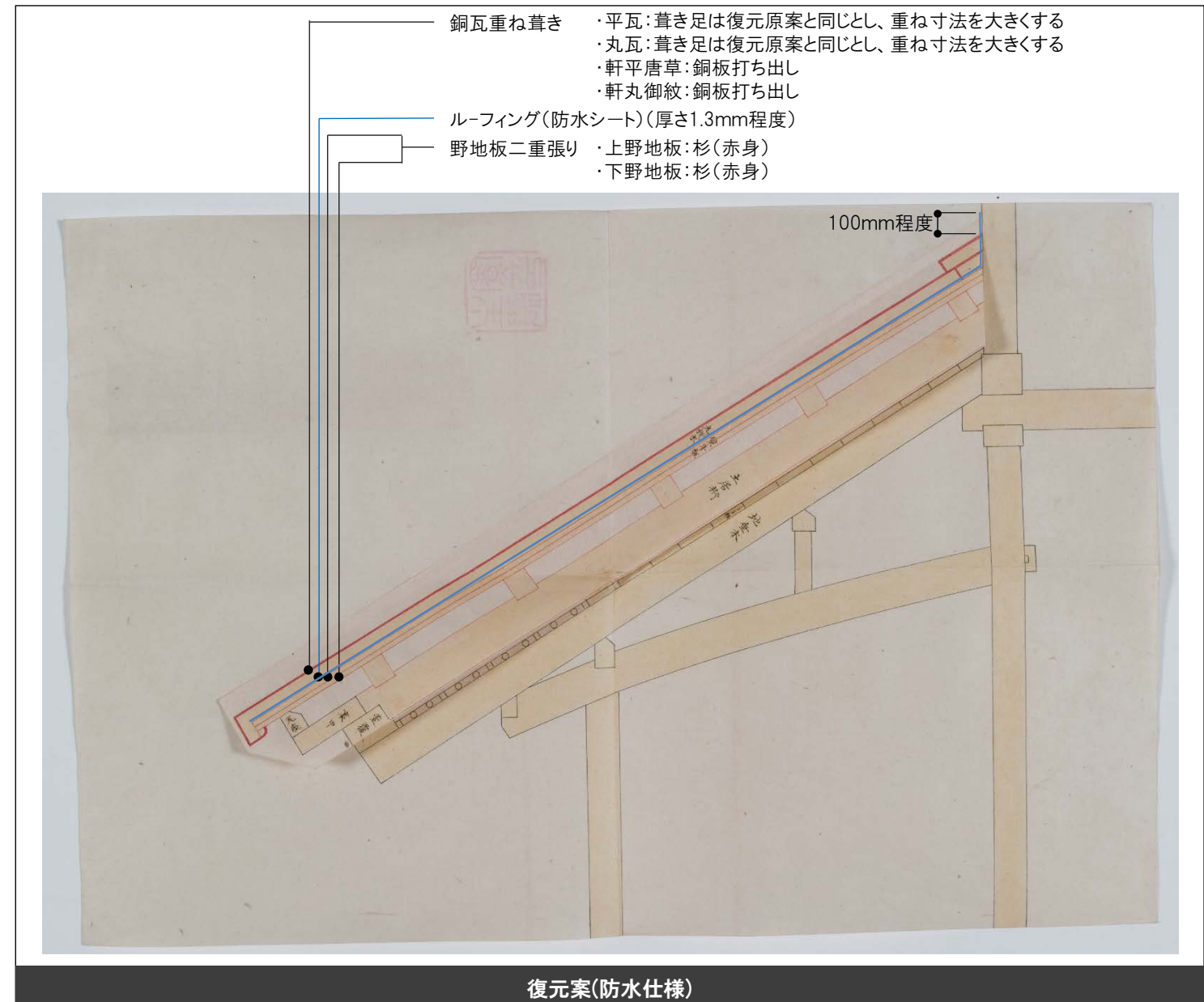
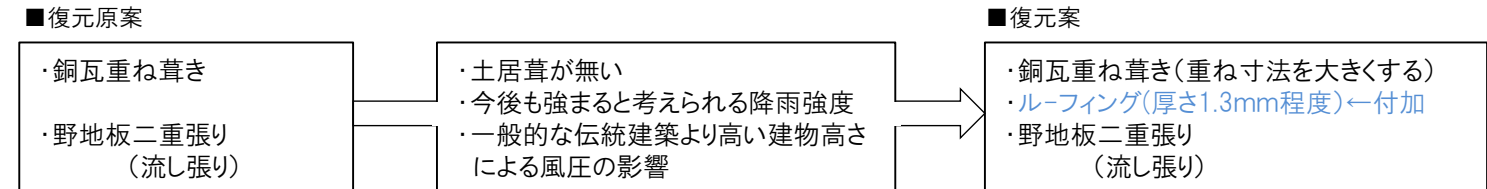
2) 復元案

銅瓦葺きの国宝、重要文化財での防水仕様の事例について以下に示す。

		歎喜院聖天堂	日光山 輪王寺三仏堂	金剛峯寺 大門
修理時：重文 修理後：国宝			重要文化財 世界遺産	重要文化財
仕上		銅板 重ね葺き	銅板 重ね葺き	銅板 重ね葺き
ルーフィング (防水シート)	現代仕様の防水	あり	あり	—
銅板葺の野地板		あり(1枚 流し張り)	あり	あり(2枚重ね 流し張り)
土居葺	伝統仕様の防水	あり	あり	なし
土居葺の野地板		あり	あり	なし



復元案：復元原案の野地板二重張り（流し張り）、銅瓦重ね葺きを踏襲した上で上記事例、懸念される事項から下記仕様を復元案の防水仕様として設定する。



・宝暦修理関連史料絵図「銅葺野地之図」(写)(名古屋城総合事務所 蔵)に加筆

## 昭和実測図にない要素

## (1)概要

『金城温古録』には、建物の構成だけでなく、家具や収納物、使われ方に伴う仮設物等の記載がある。また、ガラス乾板写真には、昭和の焼失前の状態で一般公開していた時の、床の保護材や、誘導用の備品等が映っている。これらの要素は、建物の固定要素を表現している昭和実測図には記載されていない。

建物要素なのか、仮設物、家具、備品（武具など）なのか整理し、今回復元対象とする建物の要素を抽出した。

## (2) 昭和実測図にない要素一覧表




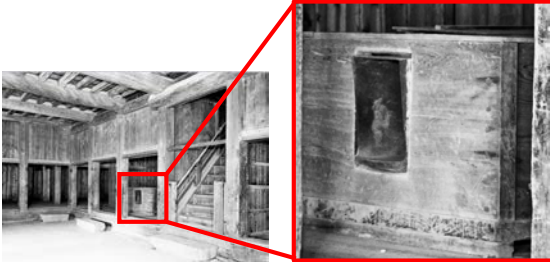

整理番号	分類	設置場所 部位	金城温古録の記載内容	掲載項目	史料での記載状況 →実施案(復元案)	備考
1	建物要素	大天守地階 井桁	文政年の初、蓋請の升出来、 此升は四方息抜の窓を明けて銅網を張りたり。	p245下	史料で形状が確認できる。 → 復元する。	
2	建物要素	大天守地階 井戸車	釣かね真木かね懸車は木。 初重の天井に仕懸有之、 初重又御蔵の間と二段に汲める仕かけ也。 井戸附之具 箱釣瓶壺対。 釣瓶綱 蕨縄にて太さ三寸五分程。 釣瓶取 鉄物に細引付く。 番手桶十。 大半切桶一。 安政、桶つるべを作て水汲に用させ、 此箱形は式正の飾りに致答、 故に爾後、御成のみにこれを出し置。 其節、桶は隠しぬ。	p246上 下	史料、写真で確認できる。 → 復元する。	
3	建物要素(可動)	小天守大棟破風 窓	東の破風に開戸の窓あり、西の破風にはこれ無し。	p220上	写真で確認できる。 → 復元する。	
4	建物要素	大天守五階 天井金具	御天井又一様に黒塗縁、かなぐ減金、御紋付小 組と承塵(ちりうけ)の板とは白木なり。	p258下	写真に写っている二之間では、縁に金具の取付跡が確認で きない。一之間の有無を判断する史料が他にない。 → 継続して検討。	
5	建物要素	大天守5階 天井	巽・良両御間の天井西へ付て各一口宛、 錠前附の所、天井へ上り道、勿ね蓋と成れり。	p258下	→ 復元する。(点検口としての機能ももたせる)	
6	仮設物	大天守地階 仮矢来木戸	封番人番所の西に在り、是より西、御蔵多し、 常は閉置る。	p241下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
7	仮設物	大天守地階 懸け戸	御門の外表にあり、雨除の為なり、 此戸の面に小窓附引戸、 此引戸を推開けば、御門錠封見ゆ。	p238下	取り付け金具の写真、図面あり。 →金具は常設と判断し、復元する。 雨除け自体は仮設と判断し、復元しない予定。	最終項に検討詳細を記載。

## 昭和実測図にない要素

整理番号	分類	設置場所 部位	金城温古録の記載内容	掲載項目	→実施案(復元案)	備考
8	家具類	大天守5階 入側窓台四脚	高さは御入側の外ヶ輪、狭間の梱にならび、四隅に四脚を置。是遠望の為、君上着御の所也、台上御半畳、縁は大紋。	p272上	史料、写真、現存類例で形状が確認できる。 → 復元する。	第13回天守閣部会にて説明済 今後策定の動線計画に影響のない範囲で復元を検討
9	家具類	大天守地階 封番人番所	石の段階上り口、御金蔵の南傍にあり。	p241下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
10	家具類	大天守1階 刀架	井桁の間にあり 二重の台にして銘に刀置所と有り。	p251下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
11	家具類	大天守1階 水帳入御長持	八掉を置。一合に一郡を納む、都て八郡八合也。	p251下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
12	家具類	大天守5階 一之間	御本間にて御成の節、御座を敷く。 二畳台大紋御褥とも。常は取納め置く。	p261下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
13	家具類	大天守5階 大御半櫃	一棹。木地蠟色塗、かなぐ鉄、実は、大図無箱也。 棒をさして高さ二尺余りの半畳台に載置る。	p261下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
14	家具類	大天守5階 中御半櫃	一棹。白木造り、かなぐ鉄。 平たく長めにして棒をさしたる儘、 是も中台に載せて大御半櫃の後ろに置、 別の子細なし。	p262下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
15	家具類	大天守5階 小御半櫃	一棹。白木造り、かなぐ鉄。錠、御成代衆封印。 是も棒さして台上に載置る。	p263下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
16	家具類	大天守5階 御萩棚	古棚は北の長押上へにあり、 新棚は西の長押上へに出来ず。 北の棚に伊勢、又今時の尾張三社の箱萩あり。	p268下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
17	家具類	大天守5階 御守札箱	二の御間丑寅の柱南面に懸る。	p269上	詳細不明。 → 復元しない予定。	
18	家具類	小天守地階 封番の詰所	二畳台 西向の台。	p223上	詳細不明。 → 復元しない予定。	
19	家具類	小天守1階 刀置場	紺縁四畳 段階上る所の入側板椽南傍にあり、 此所に御壁書あり。	p223下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
20	家具類	小天守小納戸 霊仙院様金の御手道具	是まで小天守御小納戸物置二納まれる 一旦被出之、表へ相渡り 今日、此御用御蔵へ納らる 後に 公義へ納らるゝとも 四人持御長持八、白木箱二ト云	p244上	詳細不明。 → 復元しない予定。	
21	武具類	大天守地階 升形御備	御鎗 十筋。大身、鞘黒塗、鏝菊形。	p238下	詳細不明。 → 復元しない予定。	
22	武具類	大天守1階 御備之具	御入側之所に有之御品目録、左の如し。 一御弓二百張 鞆(ユガケ) 矢箱附 右は御入側椽の戌亥隅と、丑寅の隅とに、 天え御弓を架し。 一御長柄鎗百柄 右は御入側の北、中央に有り、槍架に載る。 一唐金御鉄炮二百挺 六刃玉廿挺入 十箱 一同六刃玉三万六千粒 一箱へ千八百入 二十箱 一明槍繩千五百把 五百把入 三箱 右は御入側の東、辰巳隅迄の所に有り、 箱銘に延享四年卯六月改の字あり。	p254上	詳細不明。 → 復元しない予定。	
23	参考	大天守2階、3階、4階	此より上四重目までは御差置の品無之。	p255上	大天守2階から4階には家具類・武具類が無いという情報	



昭和実測図にない要素

整理番号	分類	設置場所 部位	ガラス乾板写真の撮影状況	ガラス乾板写真	→実施案(復元案)	備考
24	仮設物	大天守5階 入側の足場		天守閣五階内入側(焼失)	後補の観覧用眺望台と推定。 → 復元しない。	次項に検討詳細を記載。
25	仮設物	各所 近代の観覧用の保護床材		天守閣五階内長押上(焼失)	後補の観覧用保護材と推定。 → 復元しない。	
26	仮設物	各所 近代の観覧用の誘導装置 手摺など		天守閣四階内階段(焼失)	後補の観覧用保護材と推定。 → 写真の形状では復元しない。 別途、現代のバリアフリー、運用の視点で、 付加手摺の設置範囲・形状を検討する。	
27	家具類	小天守地階		小天守閣内地階(焼失) 東南側	『金城温古録』の「靈仙院様金の御手道具」または 後補の観覧用家具と推定。 → 復元しない。	
28	武具類	大天守5階 箱稜札と棚		天守閣五階内長押上(焼失)	『金城温古録』の箱稜札と棚と推定。 → 今後検討。	次項に検討詳細を記載。

出典:特記なき限りすべて名古屋城総合事務所所蔵



昭和実測図にない要素

(1)入側五階窓 入側の足場 (整理番号24)

ガラス乾板写真に写された台状の家具について記載された史料はない。

- ・大正図面には描かれていない。
- ・五階の床は大正図面～昭和写真撮影の間に二重張りとなっていて、その二重床の上にこの台が設置されている様に見える。以上より、この台が設置されたのは大正から昭和の間と推定され、最上階に来た来観者のための椅子または展望用の足場と考えられる。



【図1】「ガラス乾板写真 天守閣五階内入側(焼失)」を加工

(2)五階長押の上の札 (整理番号28)

ガラス乾板写真に写された五階長押の上の札は、『金城温古録』「御天守編之三」の「五重」「二之御間」の「御稜棚」に記載されている。

北側の棚は明和4年(1767)に設置された伊勢、尾張三社(熱田・一宮・津嶋)の箱祓で、西側の棚は天保6~7年(1835~36)に設置された物とある。このうち北側の棚は写真に写っているが、西側の棚は写真では死角で映っていない。写真では部屋の東側にも棚があり、これは『金城温古録』には記載がない。また、写真をよく見ると北側の棚は恐らく柱間1間の長さなのに対し、写真右の東の棚は恐らく東側3間に北側1間のL字形の棚になっている。

従って、ガラス乾板写真と『金城温古録』を照合すると下記の状態であったと考えられる。  
 北側中央間1間(推定): 明和4年設置の伊勢、尾張三社(熱田・一宮・津嶋)の箱祓  
 写真に写っているのは3箱だが、恐らくもう1箱あったものと思われる。  
 西側: 長さ不明。天保6~7年の天保の大飢饉に際して設置された。  
 東側3間(推定)・北側東間1間: 設置時期不明。

なお『金城温古録』(『名古屋叢書13巻』269頁)には、二の間の北東隅柱の南面に「御天守重修安全鎮護神符」と書かれた札箱があるとされていますが、写真では確認できない。



【図2】「ガラス乾板写真 天守閣五階内長押上(焼失)」

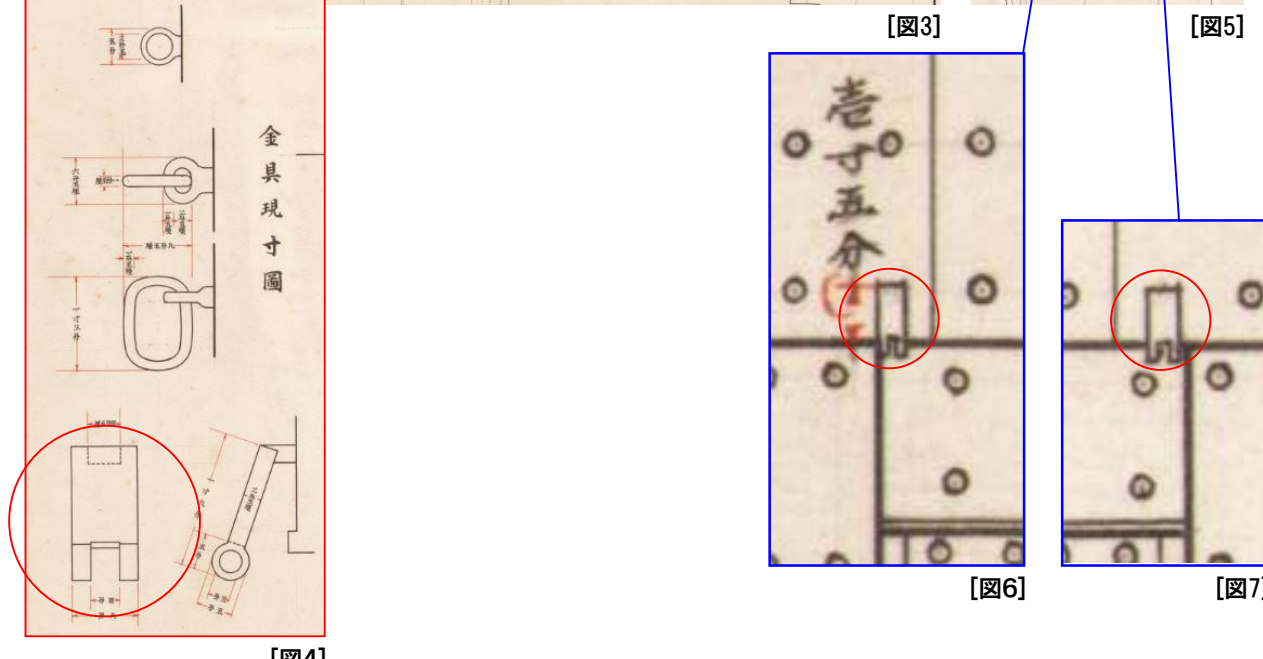
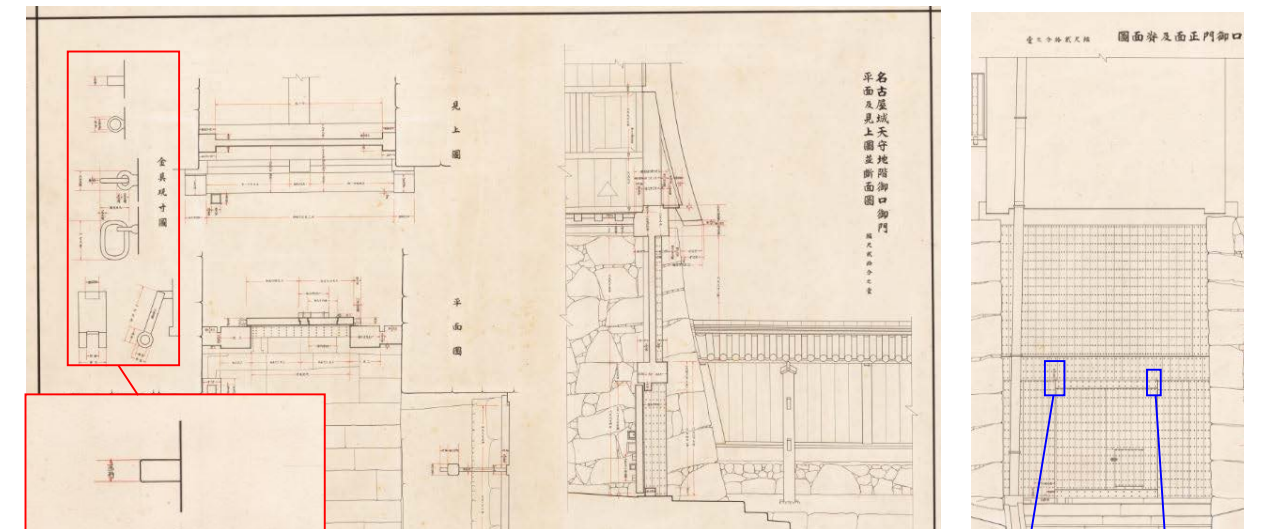
(3)大天守地階 懸戸 (整理番号7)

大天守口御門の外側には突き上げ戸が付いていた時期があったと考えられる。

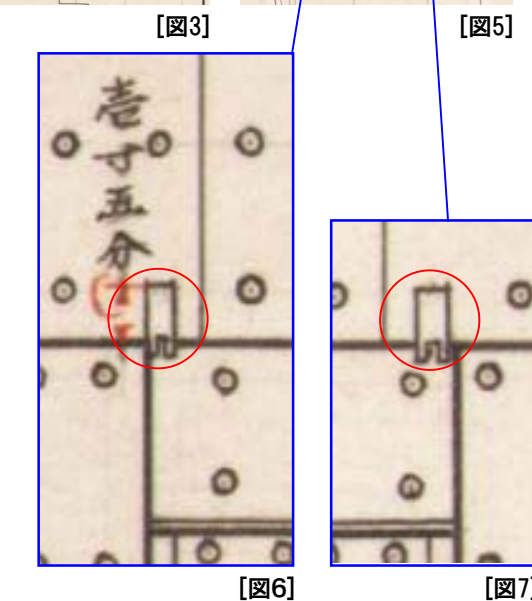
『金城温古録』「御天守編之二」の「御天守口御門」の項に「懸け戸」として次の記載がある。「御門の外にあり、雨除の為なり、此戸の面に小窓附引戸、此引戸を推開けば、御門錠封見ゆ。御天守出入有之日は、上へ押揚らるゝやうに拵付。」これによれば、口御門の外側に「上へ押揚らるゝやう」に作られた「懸け戸」があった。

また、『国秘録 御天守御修復 一』の元文4年(1739)年修理の記述には「初重入口引揚窓戸苧縄付替」とあり、「初重」として記載されているが、地階の口御門の突き上げ戸を示している可能性もある。

昭和実測図では、「地階御口御門平面及見上図並断面図」、「地階御口御門正面及背面図」には、この突き上げ戸の蝶番らしき金具が描かれており、この突き上げ戸は昭和の時点では失われ、取付金物だけが残っていたと考えられる。



【図4】「昭和実測図 地階御口御門平面及見上図並断面図」を加工



【図5】「昭和実測図 地階御口御門正面及背面図」を加工

出典: 特記なき限りはすべて名古屋城総合事務所所蔵